

はじめに

多摩森林科学園の面積は、56ヘクタールあり、一部には自然林も残され、動植物にとって貴重な生活の場となっています。

園内には7ヘクタールの樹木園と8ヘクタールのサクラ保存林があり、林床にはシダをはじめ様々な植物が生育しており、四季おりおりの姿を楽しむことができます。

シダはどれも似ていて区別が難しいといわれますが、中にはシダとは思えない姿をしたものもあります。似ているシダ同士でも、ポイントをつかんで観察すると、区別が容易なものも多くあります。見分けるポイントのひとつが孢子囊(ほうしのう)や包膜(ほうまく)のつき方や色、形です。多くのシダは初夏から夏に孢子をつけるので、この頃が観察時期としてはお勧めです。

初めて目にする方はベニシダの葉裏の包膜の赤さに驚かされることでしょう。



日本には約630種のシダが自生していると言われていますが、科学園内には現在約80種が自生しています。その内50種のシダに青い解説板を設置しています。

ハンドブックやルーペを片手にシダの観察をするとより分かりやすいでしょう。ルーペは8倍以上のものがお勧めです。



(表紙：コシダ)

多摩森林科学園入園案内

入園時間：

午前9時30分～午後3時30分(閉門は午後4時)
ただし、4月は午前9時に開園します。

入園料：

4月 / 大人400円 子供150円
5月～3月 / 大人300円 子供50円
(年間パスポート1200円)

休園日：

毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日)
12月26日～1月15日
ただし、3月・4月は無休です。
(臨時休園の場合があります。ホームページなどでご確認ください。)



森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81
電話：042-661-0200
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>
e-mail: kouhotama@ffpri.affrc.go.jp

製作：多摩森林科学園 大中みちる
島田 和則
勝木 俊雄
岩本宏二郎

発行：2015年2月4日 第一刷

シダ観察ガイド

多摩森林科学園内でみられるシダ



解説板のシダ一覧

科名	種名	生活型
ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ	常緑
イワヒバ科	クラマゴケ	夏緑
ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ	夏緑
	フユノハナワラビ オオハナワラビ	冬緑
ゼンマイ科	ゼンマイ	夏緑
ウラジロ科	コシダ ウラジロ	常緑
カニクサ科	カニクサ	夏緑
コケシノブ科	ウチワゴケ	常緑
コバノイシカグマ科	イヌシダ フモトシダ	常緑
	ワラビ	夏緑
イノモトソウ科	イノモトソウ オオバノイノモトソウ イワガネゼンマイ イワガネソウ タチシノブ	常緑
チャセンシダ科	トラノオシダ コバノヒノキシダ	常緑
オシダ科	イノデ ベニシダ オオベニシダ トウゴクシダ クマワラビ オクマワラビ ヤマイタチシダ オオイタチシダ リョウメンシダ ハカタシダ ヤブソテツ ヤマヤブソテツ	常緑
	ミサキカグマ	夏緑
ヒメシダ科	ホシダ ハシゴシダ	常緑
	ミゾシダ ヒメワラビ ミドリヒメワラビ ハリガネワラビ ヤウラシダ ゲジゲジシダ	夏緑
コウヤワラビ科	コウヤワラビ	夏緑
イワデンダ科	シケシダ セイタカシケシダ シケチシダ イヌワラビ ヤマイヌワラビ ヒロハイヌワラビ ヘビノネゴザ	夏緑
ウラボシ科	ノキシノブ	常緑

シダのからだ (イヌワラビを例に)



シダ解説板で使われている おもな用語

孢子(ほうし)：シダ植物やコケ植物などで作られる細胞。シダ類では普通、単細胞で単独に発芽して前葉体を生ずる。ゼンマイのように葉緑体を持つ孢子もある。

孢子嚢(ほうしのう)：孢子の入った袋。

孢子嚢群(ほうしのうぐん)：孢子嚢の集まり。ソーラスともいう。

包膜(ほうまく)：孢子嚢群を被う膜。円形、円腎形、鉤形、馬蹄形、線形などある。

鱗片(りんぺん)：葉柄や葉軸の表皮が変化したもので毛よりも幅があるもの。形や色などが様々で種を同定する際の重要な形質。

翼(よく)：軸の両端などに出る葉状のもの。

栄養葉(えいようよう)：孢子をつけず、光合成で栄養をつくる動きが主である葉。

孢子葉(ほうしよう)：特定の時期に孢子を密につける特殊化した葉。

二形性(にけいせい)：孢子をつける葉とつけない葉に分化し形が異なるもの。

常緑性(じょうりょくせい)：一年中葉をつけているもの

夏緑性(かりょくせい)：冬に枯れるもの。

冬緑性(とうりょくせい)：夏に枯れるもの。

単葉(たんよう)：葉身の形で、葉軸に達する切れ込みがないもの。

単羽状葉(たんうじょうよう)：葉身の形で、葉軸まで切れ込むもの。1回羽状葉ともいう。

2回羽状葉(にかいうじょうよう)：葉身の形で、羽軸まで切れ込むもの。

シダ (羊歯、歯菜) 植物とは
自然分類でいう系統群ではない。便宜上、孢子をつくり(隠花植物)、かつ維管束のある(維管束植物)ものをまとめたグループをシダ植物とする。

シダ観察 ガイドマップ

このガイドは、観察しやすい場所にあるシダを、現地に設置された解説板を見ながらまわるルートマップです。
夏緑や冬緑のシダは季節によっては見られない場合もあります。

ここを見て区別！

シダは色や形が似ているものが多くありますが、様々な区別点があります。区別点の見方がわかると覚えやすくなります。

これもシダ？

一見シダにはみえないシダもあります。

トウゲシバ



針葉樹の稚樹？

カニクサ



つる植物？

ウチワゴケ



直径1cmほどのシダ

ヒロハハナヤスリ

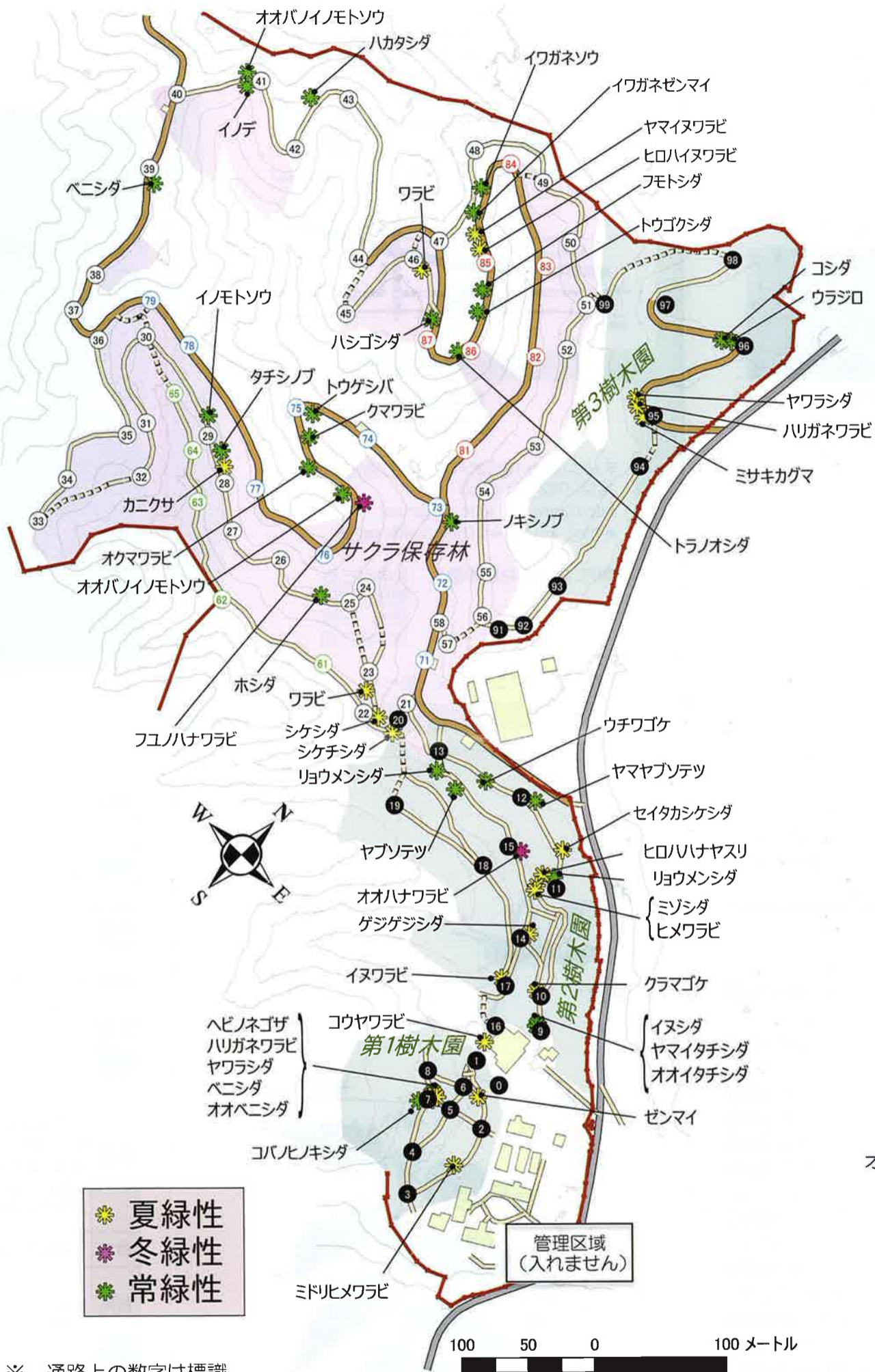


靴べらのような葉が一枚

フユノハナワラビ



胞子嚢が丸いつぶつぶ



※ 通路上の数字は標識杭の番号を示しています。

ベニシダ



最下羽片の下向き第1小羽片は隣の小羽片より小さい

オオイタチシダ



最下羽片の下向き第1小羽片が大きく張り出す

ミドリヒメワラビ



小羽片に柄がある

ハリガネワラビ



葉脈が葉縁に届く

オオバノイノモトソウ イノモトソウ



中軸に翼がない

中軸に翼がある

シダ入門者がクリアすべき 3大「ごく普通の」シダ

ベニシダ



イヌワラビ



ミソシダ



私たちの身近にあり、個体数が多いシダは「ごく普通」に見られます。ベニシダ、イヌワラビ、ミソシダが見分けられるとシダの世界が広がってきます。

動植物の採取は禁止されています。

